

## 2025 年漁期におけるニゴロブナ漁獲物調査

杉江天音・根本守仁・片岡佳孝・寺井章人

### 1. 目的

資源管理型漁業を推進するうえでの基礎資料とするため、ニゴロブナの主要な漁法である沖曳網漁および刺網漁での漁獲物の年齢や体長等の調査を行った。

### 2. 方法

調査は 2025 年 3 月 4 日に琵琶湖北湖の水深 53m の水域で沖曳網により漁獲されたニゴロブナ 78 尾、および 2025 年 2 月 3 日、2 月 26 日に琵琶湖北湖の水深 38m で刺網により漁獲されたニゴロブナ 257 尾を対象に実施した。沖曳網漁獲魚については、無選別サンプルのうち漁獲可能サイズとなる全長 220mm 以上のものを対象とした。標本は冷凍保存し、解凍後に全長、体長および体重の計測と雌雄の判別を行った。年齢査定は、鱗の輪紋の乱れを観察することにより行った。

### 3. 結果

漁獲魚の体長は、沖曳網では 170～180mm、刺網では体長 180～190mm が中心となった(図 1)。いずれの漁法においても、漁獲サイズ内での雌雄比は雌が雄の倍以上となった。

年齢別の個体数は、沖曳網、刺網ともに 2～3 歳魚が主に漁獲されていた。また、両漁法を総合すると 3 歳魚が最も多かった(図 2)。

雌のニゴロブナは GSI が 6.0%以上で商品としてメスと扱われる。今回採捕された雌のうち、商品としてのメスは 3 月 4 日の沖曳網で 75.0%、刺網は 2 月 3 日で 63.2%、2 月 26 日で 50.6%であり、昨年より高かった。

今後、資源管理型漁業の推進および資源評価を実施するにあたっての基礎データとしてこれらの結果を反映していく。

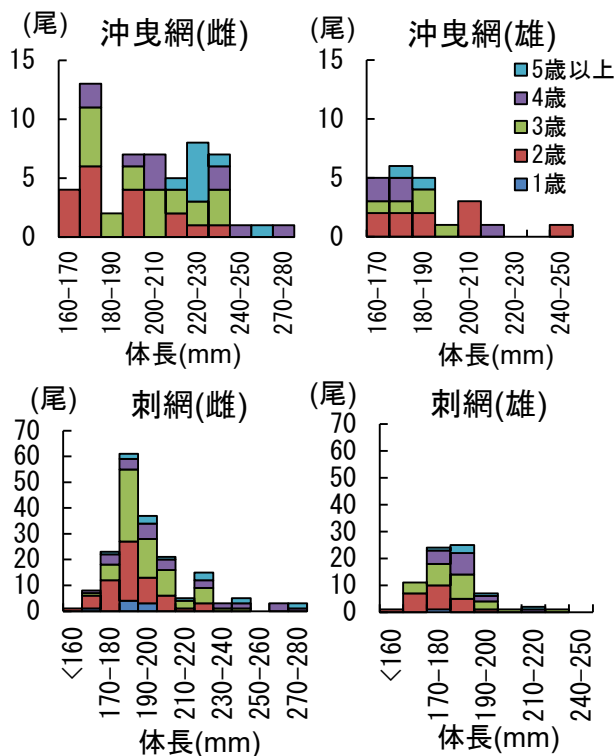


図 1 漁獲魚の体長組成

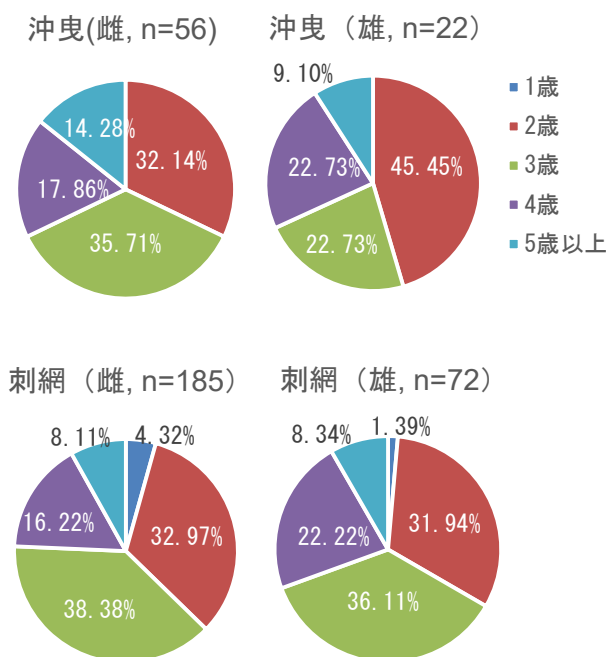


図 2 漁獲魚の年齢組成

本研究は水産庁からの委託事業「水産資源調査・評価推進委託事業」の一部として実施した。